

7月の窓

7月7日は二十四節気の小暑にあたり、暑さが加わり本格的な夏となります。この日から立秋（8月7日）の前日までのひと月が「暑中」すなわち夏の暑い時期であることから、暑中見舞いを送るのはこの期間になります。

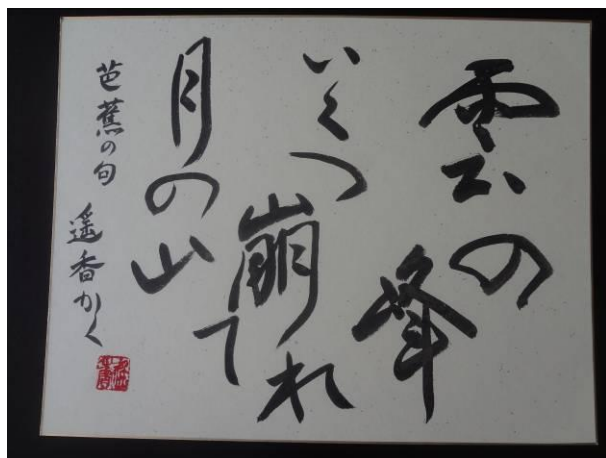
空には、夏の雲である入道雲（積乱雲）が浮かんできます。入道雲のことを俳句の世界では「雲の峰」とも言います。芭蕉と一茶の句にも、雲の峰を詠んだものがあります。

雲の峰 幾つ崩れて 月の山……………芭蕉

しづかさや 湖水の底の 雲のみね……………一茶

芭蕉の句は、昼間の入道雲が崩れ、夕方になり月が月山を照らしているところを、一茶の句は、夏の昼、湖水に映る入道雲を詠んだものです。

私が以前勤務していた南陽高校の文化祭で、書道部の生徒が「雲の峰……」の句を書いて展示していました。私も好きな句だったので、卒業する前に色紙に書いてもらいました。写真がその作品です。



山形東高校の生徒は、ほとんどが運動部か文化部に所属しています。6月は、多くの3年生にとって、部活動のしめくくりとなる月でもありました。

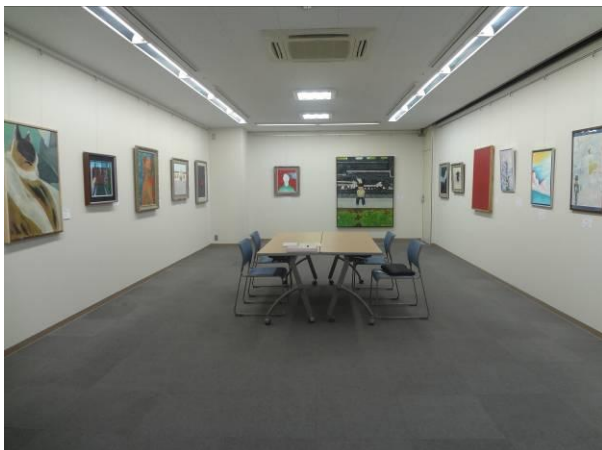
運動部の生徒諸君は、山形県高等学校総合体育大会で素晴らしい成績を残してくれました。まず、フェンシング部が男子団体で25年ぶりの優勝を果たしインターハイ（全国高等学校総合体育大会）に出場することになりました。同じフェンシング部は、個人においても、男子フルーレ、エペ、サーブル、女子エペ及びサーブルの5種目で、インターハイへの出場権を獲得しました。他にも、団体競技では、男子山岳と女子ハンドボールが2位、卓球女子が3位という成績で、女子ハンドボールは東北大会に出場しました。6月下旬に開催された水泳競技は、プールの水がな

くなるという事態から、急遽近くの室内プールに会場を変更して25メートルの短水路で行われました。日程も3日間から2日間へと短縮しての競技となりましたが、選手諸君は動揺することもなく、男子400メートルリレー、800メートルリレー、400メートルメドレーリレー及び女子400メートルリレーで東北大会へ出場することになりました。個人種目でも、男女3名の選手があわせて6種目で東北大会に出場します。

6月中旬、天童市民文化会館で「二人の女勝負師」という映画の上映会がありました。主演の笠原千尋さんは天童市出身で、本校の卒業生でもあることから、本校にも何枚か招待券をいただき、私も行ってまいりました。笠原さんは、デビュー作「彩～aja～」で2012年モナコ国際映画祭最優秀新人賞を受賞している将来有望な女優でもあります。「二人の女勝負師」は、将棋に真正面から取り組み、将棋とは何かを真摯に追及した本格的な将棋映画で、二人の女流棋士の熱い戦いを描いています。写真は上映会終了後に撮影させていただいた笠原千尋さんです。笠原さんからは、本校のホームページに掲載することも、承諾いただいております。



6月は、文化部にとっても忙しい月でした。



まず、27日（金）から29日（日）まで、県芸文美術館で「山形東高校美術部 新入生歓迎展」がありました。3年生にとっては、最後の展覧会となりましたが、新たに4名の1年生を迎えております。美術部顧問の先生は彫刻の専門ですが、今回久しぶりに絵画に挑戦されたとのことでした。前のページの写真は会場全体を撮影したものと、顧問の先生の作品です。

27日（金）には、山形市中央公民館（アズ七日町）で演劇部の「水無月公演」がありました。3年生にとって集大成とも言える今年の水無月公演で本校演劇部が選んだ作品は、昨年の「南へ」と同じ野田秀樹さんによる「TABOO」でした。室町時代の京都が舞台で、南北朝の混乱が収まった頃の話です。後小松天皇の落胤とも言われる一休が主人公ですが、あの「とんちの一休さん」とは全く違う一休が、南朝再興にも関わっていく興味あるストーリーです。ただ、昨年東北大会でも公演した「マホロスの夜」を見てきた私としては、あれ以上の感動を得られるのだろうかという不安もありました。終わってみると、さらに素晴らしい作品となりました。写真は、公演終了後のあいさつの時のものです。



そして29日（日）には、山形市中央公民館（アズ七日町）で、マンドリンコンサートがありました。昨年は、文翔館議場ホールが会場だったため、椅子の数も限られていて立ち見の方が多かったのですが、今年は広い会場で、皆さん座って鑑賞することができました。多くの方が入場してくださり、満席に近い状況でした。部員は3学年あわせると41名もの大所帯ですが、普段は狭い部屋でパートごと分かれての練習が多く、全員そろって練習する機会もあまりありません。10年以上続いている愛日荘でのボランティアコンサートの他にも、様々な演奏会やコンサートに出かけて活動してきました。この日のコンサートでは、そうした成果も出たのか、素晴らしいコンサートになりました。演劇の隣の写真は、部員全員による演奏時のものです。

最後に、今月は文翔館を紹介します。文翔館は昭和50年までは県庁舎として、議場ホールは県会議事堂として使用されていました。県庁移転後は二つの建物を文化財として保存することになり、昭和59年に国の重要文化財に指定されました。左の写真が旧県庁舎、右が旧議事堂になります。



中央にある時計塔は、文翔館のシンボルとも言えるものですが、時の記念日にあたる6月8日には、時計塔内部の見学会もありました。私は参加できませんでしたが、普段は公開していないので、来年は参加したいと思っています。ただ、文翔館内の展示室には、時計塔を詳しく説明しているところもあります。次の写真は「時計塔の歩み」を紹介しているパネルですが、「時計塔の構造」や「時計装置」を説明しているものもあります。また、高橋由一の作品をもとに、明治初期の県庁前通りを再現した絵もあります。右の写真の中央にある時計塔のある建物が当時の師範学校で、本校の前身である創立当時の山形中学校は、師範学校の片隅に間借りしていた状況でした。約2年後、通りをはさんでその向かい側あたりに、独立の校舎ができたのです。

